



# 子どもの森づくり通信

(発行:NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク)

「子どもの森づくり運動」  
フラグシップ園会報  
(2012年7月号)

〒144-0054 東京都大田区新蒲田1-10-4 tel:03-5711-0362 fax:03-5711-2264  
http://www.kodomonono-mori.net mailto:info@kodomonono-mori.net

「子どもの森づくり運動」とご縁をもたせていただいた方々に、活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。



九州北部の豪雨災害で被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。  
いよいよ本格的な夏となり、猛暑がつづきます。  
熱中症にご用心下さい。

## (目次)

1. 「子どもの森づくり運動」研修会2012(近畿・北陸ブロック)レポート
2. 植樹活動レポート
3. 事務局からのお知らせ
- どんぐり博士の育苗講座(その2)

### ■「子どもの森づくり運動」とは

今子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかし、子どもたち(特に幼少期の)は、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「子どもの森づくり運動」は、全国の保育園・幼稚園を拠点に一貫した森づくり活動を通じて、幼児期の子どもたちに「生きる力」と「健全な環境意識」を育むための自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

### ■「JP子どもの森づくり運動」とは

特別ご協賛企業「日本郵政グループ」様との協働で、運動を全国に普及促進するフラグシップ活動を「JP子どもの森づくり運動」、フラグシップ活動実施園を「JP園」として活動を展開、2010年7月、フラグシップ園全国ネットワークが構築されました。

### ■「子どもの森づくり運動」運営体制

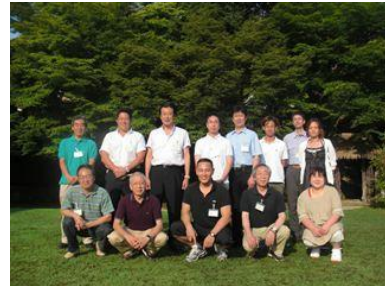
- ・運営 : NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク
- ・特別協賛 : 日本郵政グループ
- ・後援/協力 : (社)全国私立保育園連盟 (社)大谷保育協会  
(社)国土緑化推進機構 NPO法人C・C・C 富良野自然塾  
全国森林インストラクター会 NPO法人自然体験活動推進協議会  
NPO法人MORIMORI ネットワーク (社)日本オート・キャンプ協会  
(株)実業之日本社 月刊ガルヴィ編集部



## 1. 「子どもの森づくり運動」研修会2012(近畿・北陸ブロック)レポート

## &lt;実施概要&gt;

- 1)主催:NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク
- 2)協力:社団法人大谷保育協会
- 3)開催日:2012年7月2日(月)~3日(火)
- 4)会場:関西セミナーハウス「修学院きらら山荘」(京都市左京区)
- 5)参加者数:14名(スタッフ含む)
- 6)内容/講師
  - ・7/2(月)14:00~17:00  
【危機管理講座】(株)タフ・ジャパン 鎌田修広氏
  - ・7/3(火)9:00~12:00  
【自然体験・環境学習講座①(活動意義)】  
独立行政法人 森林総合研究所 多摩森林科学園 教育的資源研究グループ 大石康彦氏
  - 【自然体験・環境学習講座②(実践例について)】  
NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク 森づくり推進チームリーダー 河内和男氏



以下、ほんの一部ですが各講座の内容をご紹介します。

## ①危機管理講座(講師:鎌田修広氏)

今回の講座は、単に危機管理の知識を学ぶことではなく、まずは参加者自身の危機管理意識を含む本当の「防災力」を高めてもらい、さらにそれぞれの園において研修会参加者が中心になって、園としての防災力を高めてもらうことを目的としました。講座の主なポイントは下記の内容です。

- \* ネガティブに備え、ポジティブに行動することがとても重要であること。
- \* ネガティブな思考が、いかにフィジカルな能力に影響を与えるかということ。
- \* 防災・危機管理においては、正しい危機へのイメージーションに基づいた、事前の準備や訓練がもつとも重要であること。「10を準備して、実現するのは2である災害の現実を実感しよう。」

講座では、これらのポイントを実感するための実践プログラムやグループワークがふんだんに盛り込まれ、有意義な3時間でした。



## ②自然体験・環境学習講座~活動意義について~(大石康彦氏)

大石さんからは、幼児期の自然体験活動と環境学習の意義についてお話しいただきました。

- \* 「小枝は、手に握ることができ、何かに使うことができるものであり、カエルは、つかまえ、命を感じることができるもの」の様に、「自然は内在している価値を、自然体験を通じて子どもに届けてくれる」ものであること。
  - \* そして、それらの活動の目標は、「気付き」から「知り」、「考え」、「行動する」ところまで(子どもたちを)育てることで、「幼児期は、自らの考えで行動できる人に育っていく出発点である」ことなどをお話しいただきました。
- そんな大石さんから、木の実を使ったクイズをひとつ。マツボックリ(写真参照)をエビフライ状にしたのは誰？



(\* 答えは最終ページ)



## ③自然体験・環境学習講座～実践例について～(河内和男氏)

「子どもの森づくり運動」の全国の活動をサポートしている河内さんからは、自然体験・環境学習講座の実践例として「子どもの森づくり運動」の実際を、活動紹介写真と共にご紹介いただきました。

\* 茨城県: 聖徳保育園の子ども達が植えた、森林公園に植えられたどんぐりの成長の速さ。

\* 栃木県: 高根沢第二幼稚園の「ようちえんの森」を近くのNPOの団体とコラボで活動している様子。

\* 岩手県: 駒形保育園の園庭に植えたどんぐりの様子。

「子どもの森づくり運動」をきっかけとして、すべての保育園、幼稚園さんがどんぐりを育てながら、それをテーマに、子ども達に環境、自然を考えてもらう機会をつくり、伝える工夫をし、各園が子ども達に寄り添って活動されている様子が伝わり感動しました。最後に、園児たちに自然を感じてもらうためのプログラムとして、「葉っぱのフロッタージュ」を体験していただきました。



次回の東北ブロックの研修会は、11月27日(火)、28日(水)に岩手県「花巻温泉」にて開催予定です。

## 2. 植樹活動レポート

## ■ 徳島県「南佐古保育園」

日時: 2012年7月11日(水) 主催: 南佐古保育園 植樹場所: 園庭

日本郵政グループ: 郵便事業株式会社 徳島支店 清勢裕治支店長、子森ネット: 中村

\* 南佐古保育園では、毎年どんぐりを拾い育てる活動を継続しておられます。今回は、隣接する民家との境に、3年生の育ちの良い苗木を、2人で1本植えました。



## 3. 事務局からのお知らせ

## ■新宿せいが保育園「夏のおたより」お手紙教室レポート

7月2日(月)に、「新宿せいが保育園」(藤森平司園長)において、郵便事業株式会社(日本郵便)によるお手紙教室が開催されました。今回は、『夏がやってきた。夏に楽しみにしていることを「かもめ〜る」で伝えよう!』をテーマに、「夏のおたより」を通じてお手紙の楽しみを感じていただくことを目標に、園児が自分で描いたはがきを園内に設けた仮設ポストに投函してもらい、はがきを郵便として差し出すまでを体験していただきました。

・主催:新宿せいが保育園、日本郵便 ・講師:「青少年ペンフレンドクラブ」PFCアドバイザー ・協力:子森ネット

## \*「夏のおたより」お手紙教室感想 (新宿せいが保育園 5歳児 すいすい組担任 永田佐和子)

「遠くにいるおじいちゃんに書くんだよ!」「〇〇ちゃんにあげるんだよ!」…子どもたちが期待する中、「お手紙教室」が始まりました。講師の方の説明を受けて、丁寧に一文字一文字を綴っていく姿は真剣そのもの。野菜スタンプも、工夫しながら自分たちのイメージを楽しく表現していました。出来上がった作品はどれも気持ちのこもった素敵なので、子どもたちもとても嬉しそうでした。その後お友だち同士で手紙を交換する姿が多くなり、お手紙を書く楽しさ、貰う喜びを感じています。今後も「郵便屋さんごっこ」が続いていきそうです。



## ●どんぐり博士の育苗講座(その2)

講座も二回目、前回触れた自然に任せた育苗について述べたいところですが、時は本格的夏。

講座のテーマを意識しつつ、真夏の苗管理について話します。

\*「どんぐり博士」河内和男:「子森ネット」森づくり推進チームリーダーとして、全国の幼稚園・保育園の森づくり活動に関わる。森林インストラクター



◎日本の夏は元来、豊富な日差しと十分な温度、夕立などで適度に降る雨のおかげで、植物が最も生長する恵みの季節でした。ところが近年、恵みとは言えない夏が増えています。そのため苗の管理でみなさん苦勞されていると思います。でも元来の夏であればそれほど苦勞なく苗は生長するという事も押さえて下さい。

◎生物のお勉強を少し。気温が上がると空気が乾燥すると、植物は葉の気孔(開け閉めできる小さな穴)から水を蒸発させる蒸散を活発にします。人の汗と同じで、葉の温度を下げる働きが有るようです。それには根が水を吸い上げ続ける必要があります。土中の水分が重要となります。苗も水分が足りなくなると熱中症になるのだなど理解して下さい。

◎ですから、良く晴れて30℃を確実に超しそうな日には朝の内に水の補充が必要となります。前日に夕立が降ってくれば問題ないのですがね。水を補充しても元気がない、もしくは土がすぐ乾燥してしまう場合は、木陰への移動や、遮光ネットの利用で日差しや温度を人為的に調整するようにします。

◎逆も記します。気温が上がらず雨が多い場合、根の周りは水浸しになり、根が呼吸できず、いわゆる根腐れを起こし枯れてしまいます。熱心に水をあげすぎてこの状態にならないようにも注意して下さい。

◎夏の水管理を間違いなく行うためには、毎日の苗の見守りが肝心です。先生だけで無く子どもたちの目も借りて、苗の体調変化に気づくことができるようになって下さい。各園の苗が、この夏にたくましく育ってくれることを願っています。